

介護保険事業所としての本来のあり方

自立支援

小集団活動

個別ケア

デイサービスでの取り組み

熊本県・熊本市西区河内町

デイサービスセンター おか みかんの丘

介護職員 かわづまみ 河津真実

096-278-4056

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

熊本県熊本市西区河内町みかんの畑に囲まれた丘の上に平成17年4月開設。雲仙と有明海が一望でき温泉も湧き出ています。ココロもカラダも「元気になれる場所」として日々取り組んでいます。デイサービス 通常規模 定員1日45名

<取り組んだ課題>

数年前まではレクリエーションなど「楽しむ」という、いわば通うだけの施設であった。平成26年より自立支援を取り組み始めリハビリを楽しみながら取り組んで頂けるようトリムを導入した。結果、活動量もあがったが逆に自分で選択できることがデメリットとなり本来その方にあった必要なケアができておらず、評価も行えていないのが現状だった。

自立支援とは何か原点に振り返り介護保険事業所としてのあり方を考えなおした。通所介護施設の役割は身体的、精神的な自立を図り継続的に支援をしていくこと。そのためには画一的な集団体操やレクリエーションを辞め目標を定め個別的にケアしてこたとした。

<具体的な取り組み>

- ・一日の流れをグループごとにスケジュール化
- ・平成28年7月より活動を小集団グループ化
- ・同じ職員が1日担当
- ・全職員が目標を意識した処遇シートを作成
- ・基本ケアの実施、充実

<活動の成果と評価>

利用者数	H26	H27	H28
8月	465名	457名	590名
9月	420名	463名	608名

8月は気温が上昇し体調不良者が多くなる月でもある。しかし利用者数が前年と比べると130名増加した。個別的なケアを実践することで欠席者数が減り、利用回数が増加した。また、より実践的な自立支援を始めたことにより新規利用者の増加もあった。

(ケース①)

女性 80代後半 要介護4 認知症
4月の熊本地震により被災され一週間寝たきり状態であった。その後娘様宅に避難され利用開始となる。

利用当初は二人介助にて送迎、移動は車いす使用であった。デイサービスに通い始めたことでシルバーカー歩行まで向上し送迎も一人にて可能になった。更に取り組みを開始し「昼夜逆転を治す」ことを目標とした。取り組む前は水分が400cc程だったが水分摂取を900ccに増加、パワーリハビリ、歩行訓練を職員が統一してケアを行った。結果、発語が見られ職員の声掛けにも応じはじめ表情もでてきた。

A氏に対し職員が統一したケアを行いご家族にも水分の大切さを理解してもらったことで覚醒水準があがり、日中活動することにより昼夜逆転の解消ができた。

(ケース②)

男性 70代後半 要介護1 アルコール依存症
普段は温厚だがお酒が入ると奥様に暴言あり。飲酒量軽減のため利用開始となる。当初はお酒を飲み「きつい」と言われ休む日が続き継続的な利用が難しかった。ふらつきがありアルコール臭もあった。ケアマネージャーよりB氏にお酒の販売中止を地域ケア会議で検討する話しまで出ていた。しかし、取り組みを開始し運動をすることで生活のサイクルができた。B氏はデイサービスに来てスケジュール通りに運動することを気に入られた。また、家で飲酒するよりも集中できる取り組みがみつかったことで週3回の希望が本人の希望により毎日となった。

<今後の課題>

利用者が元気になる＝要介護度が軽減される。事業所の介護報酬は下がってくることになる。また、平成27年度から介護報酬単価の引き下げ、来年度からは総合事業開始となる。今後も継続的にどのようなサービスを展開していくか考えていく必要がある。